様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月　 ６ 日現在

機関番号：３４５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２５７１

研究課題名（和文）エレン・グラスゴウの書簡研究―ダーウィニズムの多様な観点から―

研究課題名（英文）A Study of Ellen Glasgow's Letters from Various Perspectives of Darwinism

研究代表者
本橋　香（motohashi, kaori）

芦屋大学・臨床教育学部・講師

研究者番号：１０７６００３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：エレン・グラスゴーは20世紀前半に活躍したアメリカ南部の女性作家で、南部に伝統的なロマンティックな小説から脱却しようと、南部作家の中でもいち早くリアリズムや自然主義文学の技巧を取り入れて作品を創作した。彼女はウィリアム・フォークナーなどの南部現代作家の系譜の源流であるともいえ、昨今の論考では南部ルネサンスが開花するのに貢献したと見なされている。
グラスゴーとダーウィニズムというテーマはすでに指摘されているが、本研究ではその研究を発展させ、彼女の初期の作品だけではなく、作家として高い評価を受けた中後期の作品にもダーウィニズムに関連するいくつかの影響が見られることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
エレン・グラスゴーの書簡とそれに関わる資料の収集をするために、3回にわたってアメリカで現地調査を行った。ニューヨーク公立図書館、アトランタの歴史地区、ヴァージニア州リッチモンド、ボルティモア、チャールストンと、アメリカ南部の歴史に重要な役割を果たした地域を訪れ、実際に書簡や史跡、定期刊行物に触れ、貴重な資料を集めることができた。その成果は、論文や口頭発表として社会に発信した。しかし、いずれも日本から遠い場所で滞在期間が短かったため、もう少し資料を読む時間が欲しいと思いながら帰途につくことになった。やり残してしまった課題は、本年度から採択された計画で引き継ぐことになる。

研究成果の概要（英文）：Ellen Glasgow is a Southern female writer who tried to break the romanticism of Southern literature by depicting women figures bound with convention. She adopted the literary techniques such as realism and naturalism before other writers, and is regarded as a pioneer of the Southern Renaissance and the origin of the genealogy of the contemporary Southern novelists, which leads to William Faulkner.
The theme of the influence of Darwinism on Glasgow has already been verified by J. R. Raper; however, the study of Raper analyzed the influence only about Glasgow's early works that were published up to the early 20th century when Richard Hofstadter pointed out social Darwinism was prevalent in the States. Therefore, I have pointed out that Glasgow's middle and late works also reflected on the scientific theory. I broadened the scope of study to the correspondence, and concluded that the beginning of the modernization of values in the South could be seen in both her novels and letters.

研究分野：英米文学

キーワード：エレン・グラスゴー　書簡　アメリカ南部　南北戦争　第一次世界大戦　ジェンダー規範　自然主義

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

アメリカ南部女性作家エレン・グラスゴウ(Ellen Glasgow)は20世紀前半、後進的だと揶揄されていたアメリカ南部社会に近代思想と科学的合理性を取り入れ、近代的価値観を根付かせようと、自らの作品に積極的にダーウィニズムの思想的広がりを取り入れていた。グラスゴウとダーウィニズムの影響というテーマは、J.R.レイパーがNorthwestern University へ提出した博士論文“Ellen Glasgow and Darwinism, 1873-1906”(1966)や*Without Shelter*(1971)においてすでに検証済みである。しかしながら、レイパーの研究は、リチャード・ホフスタッダーが*Social Darwinism in American Thought*(1944)で指摘している社会ダーウィニズムが流行していた時期のみを研究範囲としており、グラスゴウが作家としての成熟期である中後期に書かれた作品に関しては分析されていない。

申請者は中後期のグラスゴウの代表作にもダーウィニズムの影響が継続していることを指摘し、作品分析を行い、学会発表や論文の出版を行ってきたが、本研究ではこの研究範囲を書簡へと広げ、グラスゴウが批評家たちと積極的に人間関係を構築したことによって、ダーウィニズムを初めとする近代的価値観を南部に根付かせる端緒となったことを明らかにする。現在まで、グラスゴウの書簡研究は女性作家間の書簡についての研究書*Perfect Companionship* (Pamela R. Matthews, U of Virginia P, 2005)と*Ellen Glasgow: A Biography*(1998)で一部が紹介されているのみで、アレン・テイトやH.L.メンケンなどの男性批評家との書簡は限定的にしか研究されていない。一次資料は印刷されておらず、二次資料についても*Ellen Glasgow Newsletter20* (1984), *23* (1985)において極めて限られた部分しか出版されていない。アメリカ南部文学研究上、重要な意義があるにもかかわらず今まで注目されてこなかったグラスゴウの書簡研究は、文学がどのようにアメリカ南部の社会改革に寄与したかという点において、新しい観点をもたらすと考えた。

２．研究の目的

本研究は20世紀前半のアメリカ南部において活躍した白人女性作家エレン・グラスゴウ(1873-1945)と２人の作家たちの書簡分析を通し、ダーウィニズムから派生する思想的広がりが、いかにアメリカ南部文学に受容されてきたのかを明らかにする。グラスゴウとアレン・テイト(1899-1979)、H.L.メンケン(1880-1956)との往復書簡の分析によって、グラスゴウが奴隷制を基盤にしていた南部に近代思想と科学的合理性を取り入れ、彼女が自由と平等の概念を根付かせようとしていたことを証明する。南部文学におけるダーウィニズム受容は、奴隷制イデオロギーからの脱却に寄与していたことを、書簡研究から明らかにすることが本研究の目的である。

３．研究の方法

グラスゴウは多くの作家たちと文通を行っていたが、本研究ではグラスゴウとアレン・テイト、H.L.メンケンとの書簡を研究対象とし、申請者は以下の3点に関して分析する。

(1)グラスゴウの書簡分析により、テイト、メンケンとのダーウィニズム受容への態度の差異を

分析する。グラスゴウは作品創作時に自然主義などのダーウィニズムから派生する思想を積極的に取り入れていた。一方、テイトとメンケンの２人は、南部のダーウィニズム受容において正反対の立場をとっていた。メンケンが南部のダーウィニズムを受容しないことは後進性を表していると批判したのに対し、テイトは、南部の伝統的価値観は科学とは相容れないので、そこから南部が後進的であるとは言えないと反論した。この対照的な二人の作家との文通を通して、グラスゴウが多様性を容認する視座を高め、自然主義的手法を用いて近代的価値観を意欲的に取り込んだことを明らかにする。

(2)グラスゴウの書簡から、テイトの妻キャロラインとメンケンの妻サラとの女性作家間の関係を分析する。キャロラインもサラも作家活動をしており、グラスゴウに敬意を表していた。さらに、グラスゴウは女性作家トゥルベツコイとは同性愛を思わせる非常に感情的な文通を交わした経緯があり(*Ellen Glasgow: A Biography*. Baltimore: The Johns Hopkins UP, 1998.)、女性作家間で親密な関係を築くことを作家活動の足掛かりにしていた。これは、ヴィクトリア時代の性差論に科学的証明を与えたダーウィニズムに対しての対抗策であった。女性作家間で親密な関係を築くことは、生物科学が造言した女性の副次的役割に対抗する戦略であることを分析する。

(3)グラスゴウの作品では第一次、第二次大戦やアフリカへの植民地政策への批判的見解が散見するが、この点を南部保守の論客テイトやメンケンとの文通ではいかに議論しているのかを検証する。メンケンはドイツ系アメリカ人であるが、彼の日記には彼が社会ダーウィニズムの信奉者で、反ユダヤ主義的見解が見られたと報告されている。書簡分析を通して、戦争と帝国主義に関するグラスゴウとテイト、メンケンの立場の差異を確認する。

４．研究成果

グラスゴウの書簡を分析して得られた最も重要な結果と意義は、奴隷制を社会経済の基盤としていた南部を近代化するため、グラスゴウがいかに近代的価値観を社会に根付かせようとしていたのかを明らかにした点にある。南部を近代化することは、必然的に女性やアフリカ系アメリカ人などの人種的マイノリティーに自由と平等の権利を付与することを意味している。グラスゴウと作家たちの書簡を通して成立した交流は、白人男性批評家が中心的な役割を占めていた時代への独身女性作家グラスゴウの対抗策にもなっていた。

グラスゴウは書簡による交流に支えられ、南部に近代思想を根付かせる礎を築いたことにより、第一次世界大戦後の南部文学復興期の先駆けとなった。本音を赤裸々に語ることができる書簡は、小説からは読み取れない作家たちの多様な価値観や、南部文壇における近代思想の受容の実態を明らかにする非常に有効な資料である。書簡を直接対象として研究することによって、これまで明らかにされてこなかったグラスゴウの近代的価値観の積極的な受容を検証することが可能になった。その結果、グラスゴウが作品中で描く女性間の親密な関係は、封建制度に抗する女性による共同体を形成し、南部のジェンダー規範を解体、再構築する戦略を表象していることを証明し、論文と口頭発表にまとめた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 種子田香	４．巻 第70号
２．論文標題 心象風景としての植物描写―エレン・グラスゴーの『不毛の大地』より	５．発行年 2018年
３．雑誌名 芦屋論叢	６．最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 種子田香	４．巻 vol.17 No.3
２．論文標題 文学的想像力と他者理解―キャサリン・パターソンの『テラビシアへかける橋』	５．発行年 2017年
３．雑誌名 English and American Cultural Studies	６．最初と最後の頁 1-16, 169-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 種子田香	４．巻 第68号
２．論文標題 アメリカ南部白人女性像の変化―エレン・グラスゴウとリチャード・ライトの対照的アプローチから	５．発行年 2017年
３．雑誌名 芦屋論叢	６．最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 種子田香	４．巻 第69号
２．論文標題 Crossing Boundaries in William Wells Brown's Clotel; or, The President's Daughter	５．発行年 2018年
３．雑誌名 芦屋論叢	６．最初と最後の頁 61-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 種子田香
2．発表標題 心象風景としての植物描写―エレン・グラスゴーの『不毛の大地』より
3．学会等名 エコクリティシズム研究学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 種子田香
2．発表標題 アトランタ歴史探訪―マーガレット・ミッチェルの『風と共に去りぬ』より
3．学会等名 芦屋市公開講座
4．発表年 2019年

1．発表者名 種子田香
2．発表標題 Cross-Cultural Communication in Katherine Paterson's Bridge to Terabithia
3．学会等名 EAC-Senri Kinran International Conference（国際学会）
4．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考